



発行 宮崎県立高鍋高等学校 同窓会

宮崎県児湯郡高鍋町 大字北高鍋 4 2 6 2 TEL 0983・23・0005 FAX 0983・23・5096 URL http://www.narumigaoka.jp/

平成二十八年度 OB 祭実行委員長あいさつ

平成二十八年度 OB 祭実行委員長

脇本 隆一



平成二十八年度高鍋高校 OB 祭は、私たち平成五年卒業生が実行委員会を担当することになりました。私自身、今年度のゴルフコンペから鳴海ヶ丘会総会、OB 祭記念講演及び懇親会まで一連の OB 祭に初めて参加させていただきましたが、改めてその重責を痛感しているところでございます。

さて、私たちは、高度経済成長の終焉や石油危機、長嶋茂雄引退など一時代の終わりを告げる昭和四十九年度の生まれです。高校三年時には、バブル崩壊のニュースが飛び交い、卒業する頃には、それまで増加し続けた出生率のしわ寄せの影響による大学受験競争や就職氷河期という時代の中、小丸川を遡上する鮎のように必死に生き抜いてきました。

思い返してみれば、私たちが高校三年時（平成四年）に創立七十周年記念式典が執り行われ、現在にも受け継がれている「平和の梵鐘」が披露されたことを記憶しています。卒業から二十三年の月日が経過しようとしています。高校時代お世話になった母校に恩返しするときに近づいて来ました。

私たちは、歴史ある高鍋高校の伝統を継承していかねばなりません。諸先輩をはじめとするみなさまにご協力をお願いしながら、来年度の OB 祭を成功させるべく実行委員一同の強固なスクラムでそれぞれの役割を実践していきます。

最後に、鳴海ヶ丘会及び学校関係者すべてのみなさま方の今後一層のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。挨拶といたします。

平成二十七年 OB 祭実行委員長あいさつ

平成二十七年 OB 祭実行委員長

中村 昭人



後に続く世代の「道標」になる。この思いを胸にスタートした平成四年卒の実行委員会。真夏の太陽が照りつける8月の14日15日に平成27年度の OB 祭を開催いたしました。記念講演には戦場カメラマンの渡部陽一氏を講師に迎え多くの来場者でにぎわいました。この講師を誰にするか。これが OB 祭の一番の肝と言えます。講師の選定はみんなの意見を踏まえて企画部を中心に進めますが、実は渡部氏は当初の候補リストには入っていませんでした。候補の講師陣がスケジュールの都合などで振り出しに戻ったとき、渡部陽一氏の名前が浮上してきたのです。今、世界では頻発するテロの恐怖に怯え、未来そして命までも奪われる子どもたちがいる一方で、私たちは生まれてから戦争の恐怖に怯えることなく平和と繁栄を享受してきました。そして今年度は戦後70年。そんな今だから私たちが身の近くにある平和について考える機会にしよう。こうして講師「渡部陽一」氏が決定しました。また今回は渡部氏の写真展を高鍋高校でおこないましたが、現役の高校生とも交わることが出来たことは大変意味のあることだったと思います。今の学生が将来 OB 祭を主催するときに写真展のことも思い出してくれようという思いです。私たちがこれで行っています。高鍋高校 OB 祭のバトンを託します。

最後に、鳴海ヶ丘会及び学校関係者すべてのみなさま方の今後一層のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。挨拶といたします。

平成二十七年 OB 祭を終えて

事業推進局長

大重 智郎



今年度の OB 祭は、私たち平成四年卒業生が担当させていただきました。OB 祭の開催に当たり1年以上にわたり準備をしてきました。私が担当した事業推進局の役割は、広告協賛の取りまとめと渡部陽一氏の記念講演チケット販売のとりまとめでした。どちらも OB 祭の事業資金の大部分を占めていたため大変不安なところがありました。販売部会、広報部会の部会員を中心とした同級生の協力もあり、目標をクリアすることができました。広告協賛にご協力いただいた事業所並びに関係者の皆様、記念講演のチケットをご購入していただきました皆様、心より感謝を申し上げます。

OB 祭に参加して、友人はもちろん学生時代には一度も話をしたことのない同級生や顔は知ってるといった同級生と共に OB 祭の成功という一つの目標に向かい同じ時間を過ごせたことは、友情を深めまた新たな友情が芽生えるいい機会でした。私は今回の OB 祭の役員をして本当に良かったと思っています。これから OB 祭を迎える方も、ぜひ参加して同級生と喜びを分かち合ってもらいたいです。

最後に、鳴海ヶ丘会及び学校関係者すべてのみなさま方の今後一層のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。挨拶といたします。



各支部からの報告

関西同窓会報告

関西支部 事務局長

井川 恭子

高鍋高等学校関西同窓会は、7月26日（日）道頓堀ホテルで開催されました。今回は、創設50周年という記念の年で、ご来賓をはじめ112名の方にご出席をいただきました。

高鍋からは、飛田洋宮崎県教育委員会教育長、増田秀文同窓会会長、早日渡志郎高鍋高等学校校長と貴安利近畿宮崎県人会副会長からお祝辞をいただきました。また、創設50周年を記念して、長年関西同窓会を支えてくださった品を贈呈しました。

第一部総会の議事では、平成26年度事業報告及び会計報告、会計監査報告のあと、平成27年度の事業計画及び予算案も承認されました。さらに役員改選が行われ、都留



公平新会長が提案通り承認されました。今後も新体制のもと高鍋高等学校と関西同窓会の架け橋になり活動してまいりたいと思います。第二部の懇親会は、校歌斉唱で幕を開け、榎室秀幸ラグビー部監督からラグビー部の活動を中心とした近況紹介がありました。ふるさと高鍋高校で活躍している生徒の話に青春の日々を思い出しました。岡田良敬宮崎県フェリー取締役関西支店長の乾杯のあと、老いも若きも入り乱れての歓談にいつも余興の、「ひよつここ踊り」や「くめきだバンド」の演奏、そして福引大会と会場は盛り上がりしました。今回も多くの方々のご協力に感謝申し上げます。

在京同窓会総会報告

在京同窓会 事務局長

児玉 博

今年度（27年度）の総会は、開催日を例年より約ひと月早めて、6月14日（日）、会場は、ホテルニューオータニで開催しました。

総会には、高鍋の方からは、増田鳴海ヶ丘会長、早日渡校長、猪股教諭のご出席に加え、前年度、並びに今年度の OB 祭実行委員の方達の参加もありました。また、来賓としては、米沢興譲館高校を始め、大宮日南、延岡、富島、高千穂の各高校の同窓会から、宮崎県東京事務所

の次長、更には、鳴海ヶ丘会関西支部長のご臨席を得ました。お陰様で出席者総数は、140名を越え、目標に近い数となりました。

会は、(1)総会、(2)フォーラム、(3)懇親会の3部構成で進めました。

総会の来賓挨拶で、増田会長並びに早日渡校長から、高鍋高校の現状を拝聴しました。学校経営が厳しい環境に置かれている中、全員参加で



新しい伝統づくりに取り組まれているようで、今後の発展に期待感を抱きました。更なる飛躍を祈りたいものです。フォーラムでは、在京同窓会会長の中山野樹樹さんから、「役に立つ薬の話」という演題で、講話を頂きました。薬の発展の歴史や、療治療、またはサプリメントの効用等々、興味深く傾聴しました。本年も、ご協賛として、都農町ワイン、黒木本店、霧島酒造、雲海酒造からの焼酎多数、甲斐製茶ならびに大塚園からのお茶、加えて、会員経営のレストラン「モナリザ」のペア食事券、および、美容室「FE 以上